

敬愛きたの保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 ≪R6年度年長組≫

【目的】

*「主体的・協働的」な探究活動を行い、お子さまの「好奇心・探究心」「非認知能力」「自己肯定感」「豊かな心」「かがくする心」を育む。

*身のまわりには様々な現象があることを知り、自分やお友達とわくわくドキドキしながら、五感で感じて、挑戦し、発見し、喜び、驚き、楽しむ。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光遊びがしたい！

<テーマの設定理由>

影絵シアターを見た際に「ひかりあそびをやってみたい！」という声が上がリ影遊びに興味を持ったため。

2. 活動スケジュール

- ・影絵シアターを見る。
- ・自分たちで光を使って影遊びを楽しむ。
- ・ミュージカルで影絵を使ったクイズを行う。
- ・チャーリー西村「サイエンスショー」「影絵のワークショップ」で、かがくあそびの楽しさを満喫する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ブラックライト
- ・サイネージ
- ・アクリルブロック
- ・プロジェクター（海の中を映し出す）
- ・プラネタリウムトンネル
- ・白い布
- ・カラフル積み木アクリルシート
- ・影絵遊び用ライト

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・様々な光遊びグッズで遊ぶ。
- ・白い布やライトを用意して自分たちが影になって遊んでみる。
- ・影絵になっている様々なモノを見て答える。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・影絵シアターを見ている時に「どうなっているんだろう？」と探求心が生まれ、実際に体験すると光の位置やモノの角度で大きさや形が変わることに気がついていた。その後、様々な光遊びを楽しみながら「いろいろなものをかげにしてあそびたい！」という声が子どもたちから上がった。創作ミュージカルでは子どもたちがなじみのあるモノをシルエット形式にするなどして、光遊びを発展することが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・見たり聞いたりするだけではなく、実際にふれて遊ぶことで様々な気づきや発見が生まれていた。様々な光遊びグッズを用意することで、想像力が育まれていた。普段の生活の中で影遊びなども取り入れていると、子どもたち自身から「かげになってる！」と声が聞こえ「ほかにどんなものがかげになるのかな？」と、新たに興味関心が広がっていた。子どもたちのもともと持っている探究心や好奇心をより引き出すために、すくわくプログラムを通して様々な発見がありました。

子どもたちの『なんだろう』という気付きの中で、そこに保育者も一緒になって面白い、すごい！と共感していくことで、子どもたちだけでなく大人もワクワクと保育を実践していくことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書≪R6年度年小組≫

【目的】

*「主体的・協働的」な探究活動を行い、お子さまの「好奇心・探究心」「非認知能力」「自己肯定感」「豊かな心」「かがくする心」を育む。

*身のまわりには様々な現象があることを知り、自分やお友達とわくわくドキドキしながら、五感で感じて、挑戦し、発見し、喜び、驚き、楽しむ。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

昆虫の飼育、観察

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

2. 活動スケジュール

- ・公園で昆虫（ダンゴムシと幼虫）を見つけて、捕まえる。
- ・図鑑や絵本を用いて飼育方法について調べる。
- ・保育園内で昆虫の飼育、観察を通して、生態についての興味を深める。
- ・顕微鏡で昆虫の様子をじっくりと観察する。その際、サイネージを用いて大きな画面で観察できるようにする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・昆虫の図鑑や絵本 ・飼育用の虫かご
- ・顕微鏡 ・飼育に必要なエサ
- ・サイネージ（大きな電子黒板）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・飼育していた幼虫が亡くなってしまった。公園へお墓を作りに行くことになったが、その前に、幼虫の様子を顕微鏡を使って詳しく観察してみることにした。さらに顕微鏡とサイネージを接続し、大きな画面で幼虫の体表面を細かく観察し、足の数や顔の形、口の位置などを実際に見た。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・顕微鏡を通して観察すると今まで肉眼や虫眼鏡では見ることができなかった幼虫の体表面を詳しく見ることができ、「すごい!」「もっとみせて!」と声をあげていた。保育者が実際に顕微鏡を操作しているところを見て「じぶんでやってみたい!」と興味がさらに広がる姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・自身で顕微鏡を動かして自由に幼虫の様子を観察しようとしたり、昆虫以外の物も顕微鏡で見たいと顕微鏡に対する興味関心が広がった。

・顕微鏡やサイネージ等の操作方法を保育者から見て覚え、色々なことを試しながら自分で扱えるようになっていった。

・子ども同士のやりたいことを話し合うやりとりによって活動がさらに深まっていった。